〝誉牧野〟ついに法廷へ

足寄町と陸別町の農民五十名の共有財産である足寄町斗伏の「誉牧野」（約八百㌶）の売買問題がこじれてついて法廷へもち込まれました。

売ったのは五十名中三十八名で、買ったのは室蘭市の日本企業観光（山下光男社長）で、昨年二月に足寄町農協の坂口参事らの立会によって一戸あたり三百六十万円、計一億八千万円で売買契約を結び、手付金として三千万円が支払われ、残金一億五千万円は四月三十日までに支払うことにつていました。

しかし期限までに残金は支払わないままに九月一日になつて日本企業観光ではこの三十五名の持ち分の土地の譲渡や抵当や賃貸などを禁止する仮処分をおこなつたもので、これについて同社では「誉牧野」は五十名の共有財産であるために個人々々ゞ持ち分はどこどこと定められていないので五十名分そつくりを買いとろべく交渉していたもので、この仮処分について山下社長は『ほかへ売つたり移動させないためで、私の方から裁判はやらない、裁判となれば十年はかかる』といつていました。

さらに残金一億五千万円を払わない理由については、どちらにしても五十名分がそろわなければこの山は他へ転売できないし、仮処分で押えてあるからその間、金は有効に使えるともいつているそうです。

ところが手付金をもらつただけで残金を期限から十カ月も引き延ばされ土地を押えられている三十五名の方では弁護士に依頼して残金を支払わせる手段として同社を相手どり釧路地方裁判所帯広支部に売買契約確認の民事訴訟を提起しましたが、十八日午後一時から第一回の口頭弁論をひらくことになつています。

小坂山にメドがつく

50億円で着工へ

農業振興地域からの除外をめぐつて難航していた足寄町の小坂山観光開発について、十勝支庁側の諒解を得て六日に小林町長らが直接道へ出向いて説明にあたるなどの動きがあつて道側としては近く大原帯広畜大学長らの意見をきいて地域除外を認める段階となり、ようやく着工のメドがつくことになりました。

開発にあたる野上電鉄不動産では社長の山本有造氏が次期海南市長選に推されたことで社長と専任として会長となり、後任社長とみられている代表取締役の高山義雄氏が専務取締役の金山清作氏とともに十三日に来町して町側と打ち合せをしましたが、近く農振解除によつて本契約、残代金一億四千万円の納入、所有権移転登記のうえただちに着工することにしています。

「野上電鉄」そのものは世界百科大事典に載つているほどの明治いらいの電鉄会社ですが、不動産、観光部門は最近なので、その点高山氏は東和観光、高山観光を率いて大阪、京都、奈良、彦根などの各都市で大がかりな観光レジャー産業の経営にあたつており、小坂山は約一千㌶の大面積であるだけにこれをフルに活かして道内では最大規模の国内でも有数のアショロ・ハイランドの実現をめざしています。

同社ではすでに通産省とも協議をすすめて着工体制に入つており、土木工事関係請負の日本道路が近日中に現地へ乗り込んで準備作業をはじめて四カ月のおくれを取り戻すことにしていますが、一千㌶に達する温泉ボーリングも試みるそうで、この不毛の高原地帯に道路網を開さくして土壌改良のうえ草地化してかなりの植樹をして、ゴルフ場からロープウエイ、管理センター、クラブハウスをはじめ各種のレジャー、レクリエーション施設を完備させてサアコイとばかりに別荘地への受け入れとなるので総工費は五十億円を見込んでおり、同社としては最大の事業で日本一の観光レジャー基地をめざしています。

夏のゴルフ場を冬はスキー場に活用して年間とおしてのフル運転のうえ、交通運輸事業を主体としてきた同社だけに本州団体観光客の送り込みをもねらつており、もともと町ではこの地域を「青少年旅行村」にと過疎振興計画により込んでみたものの運輸省の構想が小規模なものだつたので手を引いた経過もあり、小林町長が打ち出している緑の高原都市づくりの一環として大きく寄与することになりそうです。

陸別が道東一に

ダイヤル化で電話の普及

一昨年十月から一億七千万円余の工事費をかけて建設中だつた陸別電話交換局（無人局）はいよいよ三月二十七日午後二時からダイヤル電話としてスタートしますが、この日から新加入となるのは三百七十世帯でこれまでの加入四百八十世帯と合せると八百五十世帯となつて二世帯に一台となり、十勝、釧路など道東地区の市町村のなかでは最高の電話普及率の町となりますし、新加入は昨年九月までの申込みで締め切つたため八十世帯の積滞があり、この分は四月から追加とりつけの予定なので、電話に関しては道東一を誇ることになります。

このダイヤル化によつて中陸別、上陸別、勲弥別などの地域集団加入の八十世帯は一般加入電話に切り替りますが、残つた薫別や小利別地区については夏までに切り替える予定になつており、陸別交換局の収容規模は一千二百台まで加入できる設備となつています。

開局にさいしての新しいサービスとして、加入者の希望によつてカラー電話器百九十二台、ビジネステレホン十六セット、ホームテレホン九セットが設置されますが、カラー電話器は新設の場合は同じ料金で希望の色をとりつけられてベルの音量が調節でき毎月の基本料金が五十円高となります。

なお、ダイヤル電話のかけ方などについては三月中旬に本別局から係員が加入者宅を訪問して説明しますが、二十七日午後二時の切り替えの十分間前後は電話を使用しないようにとのことです。

市街地は一校でよい

前号の投書で足寄市街地を二分して同じ規模の小学校を二つにしてはとの意見が出ていたが、そういう機械的なやり方は無理だと思う。現在は両国橋という物理的な境界があるから多少の不満があつても二校が併立しているので、この境界を人為的に市街の真ん中に持つて行くとすれば目と鼻の先の町内を牛木を裂くように二分するので不可能だと思うし　それよりも東小学校が国道バイパスに支障があるとすれば、そうでなくてもどこが校門なのか環境のよくない現状から、このさい西小学校と統合して市街地は一校でよいと思う。

そして統合新築の場所は役場前の町有地（元雪印工場跡）がよい。本年両国橋の拡巾架換が完成するし、西小新築期成会の第一候補地であつたし、年に一度のばん馬競走のために空けておくことはないし、役場庁舎の移築は不必要となつたただ、町有地一万坪だけでは狭いというなら地続きを買収するなり、東小や西小の跡地と交換してもよいし、どちらにしても西小を神社横地へ移築するなら用地買収と鉄道があるために長大跨線橋などに莫大な経費がかかるが、東西両小の統合となれば国の助成が有利になるので一挙両得、三得ではなかろうか。

（足寄町　私設教育委員）

読者の室

（投書歓迎）

どうする？白ろう病

笛吹けどーサツパリ……

甚幹産業の林業労働者の健康と生活を守るために足寄町では昨年いらい白ろう病対策に積極的にとりくみ新年度予算で町立病院に白ろう院検診設備をと力を入れているのにかんじんの該当者の反応はかんばしくないことです。

さきに白ろう病に罹患しているのが三十八名との診断があつたことを重視した帯広労働基準監督署では、十三、四日にわたつて署長以下が総動員の形で来町して調査にあたりましたが、職業病としての認定をうけるために病院で治療でうけて休業補償をうけようというのは三十八名のうち二十二名（一名は帯広で入院）だけという意外な結果を示しました。

白ろう病対策にとりくんでほしいとの山林労務者協議会からの強い要請や町議会での論議によつて町としては全道でもつとも熱心といわれるほどにとりくんできたものの、チエンソー従事者百七十八名をつきとめて、北大などからの医師団七名を招いて診断をうけるように案内したのに受診したのは三分の一以下の五十六名だつたことで、しかもそのうち三十八名が罹患していることがハツキリしたのに二十二名しか治療しようとしないことです。

せつかくの町の白ろう病対策に該当者は々笛吹けど踊らずゞといつた形ですが生活に追われるままに治療をうけたり六割の休業補償ではやつていけないので無理をかさねているとすればこの方が深刻な問題ー実際にはチエンソーや刈払い機による要注意者が三百名以上はいるとみられるだけに困つた問題となつています

霊きゅう車　葬儀仏具一式　花輪　生花
㊗自動車　新津はなや
足寄町西三区　T　二六二六

カメラ　八ミリ　写真材料
上野カメラ堂
上野復興
足寄駅通り　T　二五一二

新畳　表替　中古畳　フスマ張替
二段ベッド
敷物一式
マットレス
小林畳店
小林幸三郎
足寄町大通り山口整骨院前　T二四二八

大自然のなかの人工美
ーいで湯のふるさとー
観光と保養の
芽登温泉
足寄町芽登　T二八五五

おでんスナック　シャンブル
足寄町南一区　T　二四三九

不動産についての御相談は
調査　売買　あつせん　管理　分譲
代行　登記　損害保険　代理まで
同和、興和火災保険代理店
北海道免許十26
足寄不動産事務所
足寄町本通り三丁目　T二三四五
女子事務員数名求めます

お墓を新造、改造する方など
お気軽にご相談下さい（無料）
ただし毎月18時から20時まで（日曜は随時）
吉相墓研究会
主幹　高本修司
足寄町中央五区　高本とうふ店　T二五〇五

家具と建材
信用は最大のサービス
技術と納期を誇る！
家具　建具　製造販売
住宅内装に新建材を！
佐藤家具建材店
足寄駅前　電話二二二一番

春物衣料
株式会社　前田呉服店
足寄町駅前商店街　T二〇二二
が各産地から続々と入荷いたしておりますので御光来、御用命下さい。
物価高に負けないよう足で集めて参りましたので価格も安く、また形も流行品ですので、御満足を得られることと存じますのでお早目に春をお買い下さい。お待ち申し上げます。

技術に生きる！
ーあらゆる電気器具ー
テレビ　ラジオ　レコード　ステレオ
世界の　ビクター
有限会社　ミネ・デンキ
足寄町三笠通り　T　2642